

# 平成29年度事業案内(1~3月)

※申し込みが必要(各事業開催日の1ヶ月前から、電話または直接)

## グルメ体験

- 日時: 1月14日(日) 午前10時~12時
- 内容: 古代料理を作って試食します。
- 定員: 30名
- 料金: 無料
- 申込: 要/12月14日~  
(定員次第締切)



## 歴史講座

- 日時: 2月25日(日) 午後1時30分~3時
- 講師: 小豆畑毅氏(元石川町史編纂室長)
- 内容: 篠川公方に関する講演です。
- 定員: 50名(中学生以上)
- 料金: 無料
- 申込: 要/1月25日~  
(定員次第締切)



## 草木染め

- 日時: 1月28日(日) 午前10時~12時
- 講師: 太宰待子氏(染色家)
- 内容: 季節の植物で生地を染色します。
- 定員: 20名(中学生以上)
- 料金: 2,000円
- 申込: 要/1月5日~  
(定員次第締切)



## 石碑の拓本実習

- 日時: 3月10日(土) 午前10時~12時
- 内容: 石碑の拓本の採り方を実習します。
- 定員: 15名(中学生以上)
- 料金: 無料
- 申込: 要/2月10日~  
(定員次第締切)



## 冬を観察する

- 日時: 2月4日(日) 午前10時~12時
- 内容: 公園で冬の風物を観察します。
- 定員: 20名
- 料金: 無料
- 申込: 要/1月5日~  
(定員次第締切)



## 歴史ウォーク

- 日時: 3月18日(日) 午前9時~12時
- 内容: 田村町上行合の歴史スポットを巡ります。
- 定員: 30名(中学生以上)
- 料金: 無料
- 申込: 要/2月18日~  
(定員次第締切)



## 人形劇

- 日時: 2月18日(日) 午後1時30分~3時
- 内容: 劇団赤いトマトの公演です。
- 定員: 100名
- 料金: 無料
- 申込: 要/1月18日~  
(定員次第締切)



## 昔ばなし

- 日時: 3月25日(日) 午後1時30分~3時
- 内容: 民話の会による昔話の公演です。
- 定員: 60名
- 料金: 無料
- 申込: 要/2月25日~  
(定員次第締切)



## 大安場史跡公園

(公益財団法人郡山市文化・学び振興公社)

住所: 福島県郡山市田村町大善寺字大安場160番地  
電話: 024-965-1088 FAX: 024-965-1090  
Mail: oyasuba@bunka-manabi.or.jp  
休館日: 月曜日(月曜日が祝日の時は次の休みでない日)  
※公園は年中無休です。

ウェブサイトも  
チェック!

大安場史跡公園 検索



vol. 35

おおやすばしせきこうえん  
大安場史跡公園

# まるさんかくしかく

タイトルはまるい石臼、さんかくは古墳の前方部しかくは後方を表現しています。

## 十二支の考古学 —戌—

あけましておめでとうございます。

新しい年のはじまりです。1月5日(金)から2月4日(日)まで、今年の干支である戌に因んだパネル展示を行なっています。干支では「戌」の漢字を使いますが、普通は「犬」を用います。「戌」と「犬」とを使い分けると煩雑になるので、以下ではカタカナで「イヌ」と表現します。

イヌは、現代人にとって最も身近な動物の1つでしょう。この文章を読んでいる方の中にも、ペットとしてイヌを飼っている方、あるいは飼った経験のある方がいらっしゃるはずです。

日本人とイヌとの関係は古く、縄文時代にはすでに認められます。イヌのための墓が、各地でたくさんみつかっています。縄文時代のイヌは、狩猟のパートナーであったようです。埋葬された骨の中には、骨折の治癒した例もあります。猟に出られないような大怪我をしたイヌでも、処分されることなく大切にされていたことがわかります。縄文時代の人たちが、飼っていたイヌに愛情を抱いていた証拠です。愛情があったからこそ、その死に際して丁寧に葬ったのです。

ところが、弥生時代になると少し様子が違ってきます。刃物で解体された痕跡を持つ骨が、バラバラの状態出土する例があらわれます。イヌが食用にされるようになったのです。その後、イヌの食用は定着し、最近までみることができました。イヌの食用は、東アジアで一般的に認められる習慣です。稲作の伝来とともに、日本に伝えられたと考えられています。弥生時代以降のイヌには、大切にされたイヌと、食べられたイヌとがいたのです。



《参考文献》

設楽博己編『十二支になった動物たちの考古学』新泉社

縄文人と縄文犬(写真提供: 国立科学博物館)

## 大切にされたイヌ

縄文時代のイヌの骨は、現在までに約400カ所の遺跡から出土しています。今から約8,000~7,000年前の早期には確認でき、約4,000~3,000年前の後期頃から、出土した遺跡数や出土骨の個体数が増加します。

右上の写真は、宮城県気仙沼市の田柄貝塚でみつかった埋葬されたイヌです。日本の土壌は一般的には酸性質であるため、骨などの有機質は分解されてしまいます。しかし、貝殻が多く堆積する貝塚は、貝殻に含まれる炭酸カルシウムが酸性の土壌を中和するので、通常であれば失われてしまう骨が遺りやすいのです。田柄貝塚の場合も、貝殻の炭酸カルシウムのおかげで、イヌの骨が良好な状態で遺されたのです。



埋葬されたイヌ (写真提供: 東北歴史博物館)

右下の写真は、今から約2,100年前の弥生時代の銅鐸です。この銅鐸は、香川県から出土したと伝えられ、国宝に指定されています。教科書などにも掲載されたことのある有名な銅鐸なので、見たことのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。この銅鐸には、さまざまな絵が鑄出されています。そのうちの1つに、狩猟の様子を表現したものがああります。中央にイノシシ、そのまわりに5匹のイヌ、そして手に弓を持つ人物が表現されています。弥生時代にも、イヌを使った狩猟が行われていたのです。

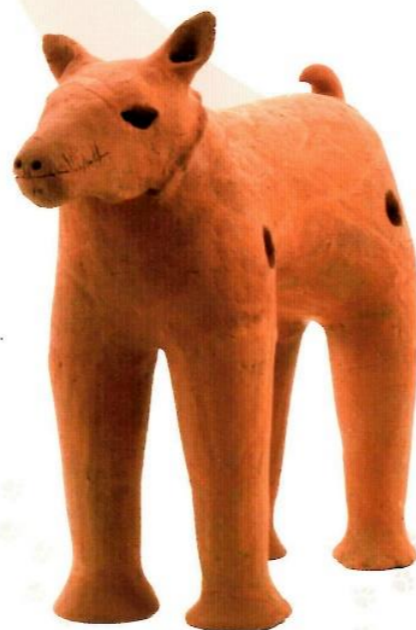


狩猟文の銅鐸 (写真提供: 東京国立博物館 Image:TNM Image Archives)

## 埴輪になったイヌ

今から約1,500年前の古墳時代の中期になると、イヌの形をした埴輪が現れます。イヌの埴輪は、他の形の埴輪と同じように、古墳に立て並べられました。埴輪になった動物はイヌだけではありませんが、古墳時代の人々にとって、イヌがとても身近で大切な存在であったことがわかります。イヌの形をした埴輪は、九州から東北地方まで、広い範囲でみつかっています。イノシシやシカ、狩りをする人物の埴輪などと一緒に並べられている例が多いことから、狩猟の情景を表現していると考えられています。

右の写真は、大阪府高槻市の屋神車塚古墳から出土した古墳時代後期、今から約1,400年前のイヌの形をした埴輪です。口元をよく見ると、短い縦線を何本も引くことで、歯を剥き出した様子表現しています。獲物を前にした猟犬の唸り声が、聞こえてくるようです。



屋神車塚古墳出土イヌ形埴輪 (写真提供: 高槻市教育委員会)

イヌの形の埴輪は、福島県でも出土しています。郡山市の北隣りにある本宮市の天王壇古墳です。右の写真は、古墳時代中期の天王壇古墳から出土したイヌの形をした埴輪です。前足を踏ん張って、前方を凝視する様子が表現されています。この埴輪の近くからは、イノシシの形をした埴輪が2点みつかっているので、狩猟の様子を再現して、古墳に立て並べられていたと考えられます。



天王壇古墳出土イヌ形埴輪と猪形埴輪 (写真提供: 本宮市立歴史民俗資料館)

## 食べられたイヌ

古墳時代が終わろうとしていた頃、西暦の675年には、ウシ・ウマ・サル・ニワトリと並んで、イヌの肉を食べることを禁止する天皇の命令が出されています。大切にされたイヌがいた一方で、食用にされたイヌのいたことがわかります。当時は仏教が盛んな時代であったので、この命令の背景には、生き物の命を奪う殺生を禁じた仏教の教えが影響しているのかもしれませんが。

宮城県多賀城市にある平安時代の山王遺跡からは、バラバラの状態になったイヌの骨が出土しています。骨の中には、体を解体した痕跡の残るものがあり、食用にされたイヌであったとわかります。

戦国時代の京都の様子を描いた屏風に、「洛中洛外図屏風」があります。華やかな京都の街の中に、イヌを捕まえようとしている怪しげな人物を見ることができます。その部分を拡大したのが下の写真です。白の毛色のイヌを狙う、2人の男がいます。白の服の男は、左手をイヌの前に出して、関心を引こうとしています。しかし、右手には捕獲用の道具を持ち、それを体の陰に隠しています。建物の陰に隠れている黒の服の男は、右手に捕獲用の道具、左手にはイヌを入れるためのカゴのようなものの付いた棒を持っています。彼らは、イヌを捕まえて売っていたと思われます。売買されたイヌの中には、食用にされたイヌもいたはずで。



イヌ捕りの様子 (写真提供: 米沢市上杉博物館)